

『都市型がん医療連携を担う人材の実践的教育』

東京女子医科大学・杏林大学・帝京大学・駒澤大学



ニュースレター 平成27年6・7月合併号

各大学コーディネーターからのあいさつ～第1回～

都市型がん医療に役立つ体制を創ること



帝京大学医学部
難治疾患支援学講座
特任教授

江口 研二

がんの治療の際に、糖尿病・心疾患などさまざまな病気もかかえている患者さんが非常に増えています。また、都会では核家族化などが進み、団塊の世代の高齢化で、高齢世帯・高齢独居などの生活をされている方が増えています。今後のがんの療養の動向として、大都市特有の課題として、交通アクセスなどと裏腹に、急増する高齢人口に対応できる医療・介護の環境と機能をどのように充実させるかということが非常に深刻な課題です。いわゆるキャンサーサバイバー（がん治療を受けた人たち）のその後の生活指導なども含め、切れ目のない支援が必要です。地域の中で医療や介護などさまざまな役割を担う人たちが、ばらばらに活動していくは解決できない課題ばかりです。

平成24年度版首都圏白書によると、2005年から2035年までの高齢人口の増加人口は東京圏では約460万人、増加率77%に対し、地方圏では増加人口345万人、増加率27%と予測されています。人口過疎地の医療は以前から問題とされていますが、実は大都会での医療をどのように担うのか、地域でどのような支援体制が適切なのか、それに対応できる多職種スタッフの数など、大変な喫緊の課題が生じてきています。高齢化社会における都市の医療環境を背景に、いつでも相談でき、がんのことも専門医と連絡できるシステムが身近な地区にあればがん患者さんにとって非常に心強いものとなります。

帝京大学に設置された「がんを診ることのできる総合診療医」育成の課程は、総合医としての診療能力を基盤に、専門医療機関と連携してがん診療を継続しうるスタッフ、すなわち地域がん医療のネットワークを支える人材の育成を目指しています。

「都市型医療連携を担う人材の実践的教育」について

この「都市型医療連携を担う人材の実践的教育」プランは、東京の4大学が連携を組んで、都市における地域医療連携を踏まえた最適ながん治療を学修するプランです。広い学識を持ち地域連携のコーディネート能力の高いがん治療専門医、がん治療専門看護師、医学物理士などを養成し、がんに関する理工系研究者を医理工連携で養成します。

東京女子医科大学では、化学療法医、緩和医療医、放射線腫瘍医のみならずすべてのがんにかかる診療科の院生を対象とした「都市型がん医療連携を担うがん治療専門医養成コース」、がんに関する先端医療機器や創薬・再生医療の研究者を育てる「医理工連携がん研究者養成コース」、QOLを重視した地域医療連携を推進できる「がん看護専門看護師養成コース」を開講しています。また、院生のみならず受講を受入れる様々なインテンシブコースを開講し、東京におけるがんプロフェッショナルを養成の一翼を担っています。多くの院生、がん医療関係者のご参加を期待しています。



東京女子医科大学
放射線腫瘍学講座
教授・講座主任

唐澤 久美子



医学物理士と医学物理コースについて

医学物理士とは、国際労働機関(ILO)の国際標準職業分類においてMedical Physicist「物理学に関連する科学的知識を医療の分野に応用する職業」と規定されています。日本では「放射線医学における物理的および技術的課題の解決に先導的役割を担う者」と定義され、一般財団法人医学物理士認定機構が認定を行っています。2015年4月時点では837名が認定されていますが、米国の約5600名と比較して人材不足が深刻で、日本でがん放射線治療の高度化が遅れた原因の一つとされ、その対策としてがんプロフェッショナル養成プランの当初から医学物理コースが立ち上りました。

2015年4月時点で、全国の大学院33校に医学物理コースがあり、そのうちの17校は医学物理士認定機構の教育コース認定を取得しています。

本がんプロでは駒澤大学の修士課程コースが次年度の認定取得を目指しており、女子医大が次年度より博士課程のコースを立ち上げる準備を進めています。



～大学院コースの紹介～

医学物理士養成コース

大学院の修士課程において、「がん地域遠隔画像診断支援技術者養成コース」を2013年4月に開設、「医学物理士養成コース」を2014年4月に開設しました。

前者はがん地域連携遠隔画像診断における標準化に対する問題点の解決、画像データの精度管理やセキュリティ対策を目指すリスクマネジメントの遂行が単独で行える技術者の養成を目指すものです。

後者である「医学物理士養成コース」は高精度放射線治療の物理的技術的基礎を確保し、放射線治療における線量分布の最適化と評価が行えると共に、高い安全性を確保できる能力を有する技術者の養成を目指します。

～医学物理士養成コースの概要～

・養成する専門分野

医学物理士、放射線治療品質管理士

・養成する人材像

- ①高精度放射線治療の物理的、技術的基礎の確保による高品質かつ安全性の高い放射線治療が実践できる人材
- ②医学物理士(医学物理士認定機構)や放射線治療品質管理士(放射線治療品質管理機構)または放射線治療専門技師(日本放射線治療専門技師認定機構)の資格を取得できる人材

・修業年限

2年間



※平成28年4月には東京女子医科大学の大学院に医学物理士養成コースを新設予定



～医学物理インテンシブコースの紹介～

医学物理のための医学入門

理工系学生あるいは出身者で、将来の進路として医学物理士を考えている方のための医学物理学や医学とはどのような学問領域かをわかりやすく解説する入門編のコースです。

大学院博士課程医学物理コースへの導入ともなります。

テキストと独自に作成した資料により、医学物理士の業務、医学物理士として学ぶべき基礎医学、放射線医学、腫瘍学について概説し、医療従事者としての心構えなどの基礎的事項を学びます。

授業にあたっては、各受講者からのフィードバックを取りつつ確実に理解できるよう解説します。

開講期間:2015年6月11日～7月16日(毎週木曜日)

その他:連携大学からの参加者は無料で履修できます。

医学物理士を目指す方のための理工系科目補習コース

保健学科系学生あるいは出身者などで、将来の進路として医学物理士を目指している方のための基礎物理学、物理数学、放射線物理学などの学習を助ける補習コースです。

大学院博士課程医学物理コースへの導入ともなります。

テキストと独自に作成した資料により、医学物理士として学ぶべき基礎物理学、放射線物理学、臨床領域の放射線物理学などの理工系科目について認定試験対策も踏まえて講義します。

授業にあたっては、各受講者からのフィードバックを取りつつ確実に理解できるよう解説します。

開講期間:2015年7月4日～8月8日(毎週土曜日)

その他:連携大学からの参加者は無料で履修できます。

上記、2つの教育コースとも、医学物理士認定機構に認定された講習会です。



看護の取り組みについて

がん看護専門看護師について

専門看護師制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的としており、認定審査による承認を行っています。現在、11の専門分野があり、がん看護分野は最も多くの専門看護師が認定されています。がん看護分野の特徴は、がん患者の身体的・精神的な苦痛を理解し、患者やその家族に対してQOL（生活の質）の視点に立った水準の高い看護を提供することです。

専門看護師は、専門看護分野において以下の6つの役割を果たします。そのため、患者やその家族の不安を和らげるコミュニケーション、がんに関する専門知識や看護技術の向上、患者やその家族はもとより医師や介護者などの保健医療福祉に携わる関係者との調整する能力、他の看護師の質の向上のための教育や、看護実践の向上に向けた研究活動を遂行する能力などが求められます。

1. 個人、家族及び集団に対して卓越した看護を実践する。(実践)
2. 看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う。(相談)
3. 必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行う。(調整)
4. 個人、家族及び集団の権利を守るために、倫理的な問題や葛藤の解決をはかる。(倫理調整)
5. 看護者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす。(教育)
6. 専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動を行う。(研究)

コース紹介



東京女子医科大学

◇看護学研究科 がん看護専門看護師養成コース 〈実践看護学Ⅰ(がん看護学)CNS実践看護コース〉

がん患者・家族のQOLの維持・向上を目指して、さまざまな治療中の看護、がんサバイバーへの看護、緩和ケア、エンド・オブ・ライフケア、地域医療連携、がん医療体制などについて、追究するコースです。現代社会におけるがん医療の課題から臨床における看護の質向上まで多角的な見解から課題について探索し、高度実践能力、コンサルテーション、倫理調整、チーム医療を推進する調整力などCNSとしての能力を育成します。専門看護師教育課程基準の38単位コースとして開設しています。共通科目では、フィジカルアセスメント、病態生理、臨床薬理の強化を行い、がん看護専門看護師の役割開発に関する実習を強化しています。更に、がん看護に関する専門科目では、薬物療法、意思決定支援、シームレス医療、セクシュアリティやボディイメージへのケア、在宅療養支援、症状マネジメント、臨床推論、遺伝看護、家族看護などに関して学びます。



杏林大学

◇保健学研究科看護学専攻 がん看護専門看護師養成コース

臨床現場において、卓越した専門的能力を持つ実践者、ケア調整者相談者や教育者、研究者としての役割機能を果たすこと。ならびにケア開発ができる人材として高度実践看護師育成をします。

◇保健学研究科看護学専攻 がん患者コーディネーター養成コース(インテンシブ)

がん患者のQOL維持・向上の視点に立ち、様々なニーズに答えられるコーディネーターの役割機能を果たすこと。また、退院支援として病院と地域医療のコーディネーションができる人材を育成します。



その他の取り組み

東京女子医科大学

・連携大学合同公開シンポジウム(平成28年2月6日)

本年度は東京女子医科大学看護学部が中心となり公開シンポジウムを行います。講師に信念対立解明アプローチを開発した京極真先生をお迎えし、「多職種チーム医療における意見の違い・対立をどのように調整するのか～より良い意思決定支援を目指して～」と題してシンポジウムを行います。今後のニュースレターで詳細をお伝えしますので、関心のある方のご参加をお待ちしています。

・市民を対象とした公開講座(平成28年2月27日)

看護学部公開講座として「がんになつても困らない暮らし方のヒント」をテーマに公開講座を行います。こころの変化、がんに関する情報の集め方、治療中のすごし方、経済的な課題への対応、セカンドオピニオン、チーム医療の取り組みなどに関する講演を企画しています。

・がん看護学専攻の大学院生と大学院修了生による事例検討会

事例検討会では、複雑事例の検討、勉強会なども行っています。大学院生と修了生の交流の場でもあり、認定試験の準備をしたり、CNS活動に関する情報共有の場でもあります。年間で4回開催しています。

帝京大学

6月11日に行われた第15回帝京がんセミナー「こどもたちへのケアを考える～大切な人ががんになつたり、亡くなつたりした子どもたちへのサポートグループを通して～」を皮切りに、「家族のがんとともに歩む子どものサポートグループ」開催の準備を進めています。このサポートグループは、連携大学に所属している多職種のメンバーが協働して作り上げてゆくもので、今年度中の開催を目指しています。今年度は、帝京大学医療技術学部看護学科に事務局を設け、ファシリテーター養成研修を行う予定です。

看護系3大学今後の予定（平成27年度）

平成27年 7月18日 東京女子医科大学 がん看護学事例検討会

平成27年 7月25日 連携4大学合同カンファレンス

平成27年 8月21日 帝京大学 市民向け「ミニ健康講座：がん患者の家族の悩みと対処法」

平成27年 9月19日 杏林大学 保健学研究科看護学専攻 がん患者コーディネーター養成コース
(インテンシブ)スタート

平成27年11月20日 東京女子医科大学 がん看護学事例検討会

平成28年 2月 6日 連携大学合同公開シンポジウム（会場：東京女子医科大学）

平成27年 2月20日 東京女子医科大学 がん看護学事例検討会

平成28年 2月26日 東京女子医科大学 看護学部 公開講座



登録・問い合わせ先

 東京女子医科大学	 帝京大学
がんプロ事務局 TEL 03-3357-4889 MAIL top-g4.bm@twmu.ac.jp	事務部 教務課 がんプロ担当 TEL 03-3964-1211(代表)(内線42122) MAIL ganpro@med.teikyo-u.ac.jp
 杏林大学	 駒澤大学
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局 TEL 0422-47-5512(内線3211) MAIL ganpro@ks.kyorin-u.ac.jp	教務部研究推進課研究推進係 TEL 03-3418-9125 MAIL ken-suishin@komazawa-u.ac.jp



本事業の最新情報はホームページに掲載、「TOP-G4」で検索